

みんなが 働きやすい 環境整備

・トイレ
・更衣室
・休憩室
・託児スペース
など

事例集

令和4年度
農林水産省補助事業
女性の就農環境改善
支援事業



女性 グループの 活動支援

・商品開発
・先進地視察
・研修 など

本事例集は、農林水産省補助事業「令和4年度新規就農者確保緊急対策のうち女性の就農環境改善支援事業」の一環として制作しました。

発行日：2024年3月

編集・発行：株式会社マイファーム

問い合わせ：株式会社マイファーム女性の農業活躍推進事務局

〒600-8216 京都府京都市下京区東塩小路町607番地辰巳ビル1階

Email: women@myfarm.co.jp

女性の就農環境改善支援事業

現在、農業の担い手である基幹的農業従事者は、2000年から20年間で約4割減少しており、今後もさらに減少することが見込まれます。

また、経営体数及び経営耕地面積に占める法人経営体等のシェアは年々拡大しており、農業経営において大きな役割を果たすようになっていきます。農業就業者全体における雇用者の割合も年々増加傾向にあります。人手不足の状況を示す農林漁業における有効求人倍率は全産業の平均を上回っており、人手不足の状況が続いていることがわかります。

農業は、職業として他産業にない魅力を有しつつも、「季節や天候に左右されやすく柔軟な働き方が難しいこと」や、「収穫期など農繁期には集中的に長い時間作業をする必要がある」などといった農業に特有の労働環境・労働条件を背景とした定着率の低さが課題となっています。

このため、本事業では、男女別トイレや更衣室等の女性が働きやすい環境の整備を支援しました。整備をした農業法人等では、職場環境に対する満足度の向上、求人の際のPR、従業員間のコミュニケーションの充実につながっています。

本事業での取組事例を通じて、女性をはじめとした多様な人材の働きやすい環境の整備の参考にしていただくと幸いです。

女性の就農環境改善緊急対策事業補助金活用事業者一覧
<https://myfarm.co.jp/women/pickup/detail/?p=4072>



女性が働きやすい環境整備について

基幹的農業従事者の約4割は女性です。農業界でこれからも女性が長く生き生き働けるように、働きやすい環境づくりが急務です。

「令和4年度女性の就農環境改善支援事業」では、全国各地の不便や困りごとに応え、解消していくことで、女性の農業界への呼び込み・定着に寄与するため、環境整備に関する補助金を交付しました。

上限
300万円

補助の対象となる活動

女性が働きやすい環境整備に向けた施設等の確保

1. 託児スペースの確保

2. 男女別トイレの確保

3. 更衣室の確保

4. 休憩スペースの確保

5. 高さが調整できる作業台、アシストスーツ等の確保

6. その他女性活躍に資するとマイファームが認める施設等の確保

※汎用性が高く女性活躍への効果が低いと考えられる農業機械等については対象から除きます

環境整備を実施した61団体のうち、

・託児スペースの確保……………4件	・男女別トイレの整備……………50件
・更衣室の整備……………25件	・休憩スペースの整備……………28件
・アシストスーツ……………4件	・その他……………8件
	(シャワー室3件、電動台車2件、電動剪定ハサミ1件)

が実施されました。その中から、補助金を利用した3つの団体の事例を紹介します。

※複数実施の団体有

事例目次

- ・株式会社関田農園……………4ページ
- ・株式会社陽だまりファーム……………6ページ
- ・株式会社フルトリエ……………8ページ

株式会社関田農園

話し手：関田淳市さん、関田美穂さん

団体情報

所在地	埼玉県白岡市
代表者	取締役 関田淳市
設立年	2014年（法人化）
従業員数	62名（うち女性37名）
特徴	長ネギをメインに（25ha）、トウモロコシ（0.5ha）、オクラ（0.5ha）を有機肥料主体で栽培。土作りからこだわり安心安全な野菜の提供に取り組んでいます。



団体サイト



補助金の使い方内訳

- 女性用トイレ
（トイレユニット、排水ユニット）
約 300 万円



・ BEFORE ・

安心してトイレを使用できず 順番待ちが常態化

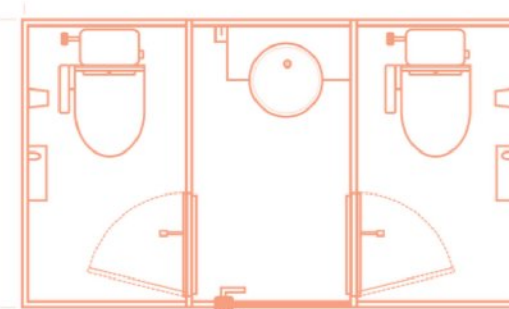
男女兼用トイレが2つありますが女性専用トイレはなかったため、女性はサニタリーボックスを気軽に使用できず、月経中は休んでしまう従業員もいました。また、1日に30人程の女性が工場内で出荷などの作業をしますが、そもそも従業員数に対してトイレの数が足りておらず、順番待ちが当たり前で発生していました。

女性の雇用をもっともっと 増やしたい

現在の主力が女性従業員であり、作業のきめ細かさや配慮、消費者目線が活かされ、高い品質保持に役買っている女性の雇用をもっと増やしたいと思っていました。ファミリー世帯が多い地域なので、子育て世代の女性が率先して働きたいと思ってもらえるように就業規則や待遇といったソフト面の見直し課題でした。



アフター AFTER



女性専用トイレの間取り図



防犯対策としてトイレ建屋は鍵付



排水ユニット付きで清潔なトイレ



快適なトイレで心理的負担ゼロへ

従業員からは女性専用のトイレができたことで安心して使用できると喜びの声が上がっています。今回の女性専用トイレ設置をきっかけに、本事業とは別に、男性専用トイレも設置し順番待ちも緩和されました。トイレの床には畑の泥汚れを流せるよう排水ユニットを付け、衛生面へ配慮しました。採用面接の際トイレについて質問されることが多いので、自信を持ってアピールすることができています。

男性専用トイレも設置 ▶



多様な働き方の導入を

子育てや介護など時間に制約のある方でも働きやすい自由シフト制を導入し、従業員全員でフォローできるようにしています。他社では勤務時間がネックで雇用に至らなかった優秀な人材の雇用ができ、雇用の幅も広がりました。また、利益は従業員に極力還元したいので、社労士と相談し、時給は1,060円以上(埼玉県最低賃金987円※2022年11月時点)へ引き上げるとともに、能力に応じた昇給査定を行っています。

これらは、従業員のモチベーション向上につながっています。実際に長く続けてくれる方が増えました。

また、衛生管理や従業員の経営管理にも目を向けたという思いから、役員に第1種衛生管理者の資格を取得してもらい、安全・衛生管理項目の作成、改善点などのチェックを進めているところです。安全に作業できるように、環境整備に引き続き取り組んでいきたいと思っています。

・ 今後のビジョン ・

ネギの産地化を目指して

ハード面・ソフト面の整備を求人の際にアピールすることで従業員を増やすことに成功しました。

さらに女性用トイレ新設を契機に来年度は農福連携も進めて雇用を増やし、近隣の遊休農地を借りて栽培面積を拡大することで地域の活性化に貢献し、目標としている長ネギの産地化に繋がっていききたいです。



株式会社陽だまりファーム

話し手：高橋博之さん

団体情報

所在地	静岡県浜松市
代表者	代表取締役 高橋博之
設立年	2019年
従業員数	7名（うち女性5名）
特徴	早生みかん・青島みかん等の温州みかんをメインに約11haの面積で栽培し、収穫したみかんは国内だけでなく海外でも販売しています。「想いの語られる農産物を作り、働く人が笑顔となる持続的農業」を目指しています。



団体サイト



補助金の使い方内訳

- 女性用トイレ（トイレハウス） 約 100 万円
- 休憩スペース（ユニットハウス、電気工事、カーテン・エアコン取付工事） 約 200 万円

※自己負担も含めた総額事業費は約320万円



・ BEFORE ・

混雑する男女兼用トイレは 気を遣いながら・・・

繁忙期にはアルバイトが多い日で50人くらい（うち女性は半数程度）勤務するので、朝の勤務前の時間は2つしかなかった男女兼用トイレが渋滞し、男性も女性も気を遣い合って使用していました。また、着替えは他の人も出入りするシャワールームで行う、休憩は自分の車の中や外でとるなど、あまり落ち着かない状況でした。

規模拡大に向けて働き方を 整えたい

地域では資材価格の高騰等による減収によって、離農者が増えていました。その中で規模拡大に向けて雇用を促進するために社労士へ相談したところ、従業員ひとりひとりが自分の働き方を選択できるように就業規則の見直しや雇用環境の整備・周知のために次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画（※11ページ参照）の作成を勧められました。



アフター AFTER



休憩スペース

休憩スペースの
間取り図



カーテンによる間仕切り



女性用トイレ



カーテンを閉めれば一人の空間も大切に。
開ければみんなで仲良く休憩。



トイレは広くて清潔。
休憩室とトイレは動画でも紹介しています ▶



トイレも休憩室もプライベート 空間を大切に

広くて清潔な女性専用トイレができたことで、従業員が気を遣わないで使用できるようになり、朝の渋滞も緩和されました。女性従業員の意見も取り入れて、女性が使いやすいよう手洗いには鏡も付けました。休憩室は安心して仮眠や着替えができるようにプライベート空間を大切に考え、カーテンで3部屋に分けられるように工夫しました。女性従業員からはエステサロンみたいと評判です。

カーテンを開けて
お昼ご飯をみんなで
食べているときは楽
しい笑い声が聞こえ
てきます。求人面でも
働きやすい環境を
アピールしたこと
で、応募も増加しま
した。

株式会社陽だまりファーム

みかんの栽培・生産 加工品の製造・販売

勤務地 北区三ヶ日町日本

11月中旬～12月下旬頃迄の短期!!1日～OK
急なお休みやご家庭の都合にも対応します!

仕事 ①みかんの収穫②選別③運搬④梱包⑤出荷
①みかんの収穫。カゴを肩にかけて作業します。
②選別。選別トラックにコンテナを積み、
積み込みます。選別します。
③選んだみかんの選別、みかんの梱包
などの立ち仕事。
給与 ①11月1000円～ ②12月1200円～
7:30～16:30の間で相談OK ※9:00～12:00、
9:00～14:00、10:00～16:30などの時間帯もOK
ご家庭の都合や学校行事に合わせたシフトも
相談OK。急なシフト変更などもOK
期間 11月1日～OK日曜や雨天、出勤調整日は休み
期間 11月中旬～12月下旬頃迄 ※収穫状況による
資格 未経験者OK、親子や友達同士OK ※要誓書
特選 労務保険 交通費規定支給 お土産みかん

▲ 求人でも働きやすい環境をPR

・ 今後のビジョン ・



多様な働き方でみんなが能力を発揮できるように

働きやすい仕組みを導入したことで、短時間しか働くことができない人も勤務を継続することができました。やる気もスキルもあって、短時間の勤務でも活躍してくれています。人手不足に関わらず、他産業に人手をとられてしまうため人を雇うことが難しくなっている農業界では、働く人に選んでもらえる働きやすい環境づくりが必要です。これからも「働く人が笑顔となる持続的農業」を目指して更に取り組みを進めていきたいと思っています。

株式会社フルトリエ

話し手：中村美沙さん

団体情報

所在地	福岡県久留米市
代表者	代表取締役 中村美沙
設立年	2017年（2022年に法人化）
従業員数	19名（うち女性17名）
特徴	1haの農地でぶどうを中心とした果樹を育て、生産以外に観光農園・直売所・カフェ・加工を営んでいます。「誰もが楽しめる観光農園」を目指し、園内はすべてバリアフリーでキッズスペースも充実させています。



団体サイト



補助金の使い方内訳

- 託児スペースの設置
（コンテナハウス2基、水道工事、電気工事、エアコン2基設置、安全マット、子ども用のイス・机・大型遊具）

300万円

※自己負担も含めた総額事業費は約340万円



・ BEFORE ・

休校・休園で働きたいのに働けない人が続出

新型コロナウイルス感染症拡大時には休校や休園が相次ぎ、従業員本人や子どもに症状がなくても、子どものお世話のために2〜3週間欠勤する従業員が続出して現場が回らなくなりました。やむなく子連れ出勤を認め、仕事の片手間で従業員が交代で外の畑で子どもの面倒を見ていましたが、忙しい時間は子どもを見ておくことがかなりの負担になり安全面も心配でした。

農園の成長に合わせてスタッフの待遇も見直しを

事業拡大に伴って少数の家族経営から20人程に従業員が急増しました。当時の就業規則では農園と農園以外の業務で労働時間や待遇の差があり、繁忙期にヘルプに入り合うことが難しいことが課題でした。また、長年勤務する従業員がステップアップできる給与や評価の仕組みもなかったため、これらを整えたいと思い社労士へ相談することにしました。

アフター AFTER



内装も子どもたちの好みに合わせて



設置場所は仕事の近くで安心

安心・安全の託児スペースで仕事も安心して

託児スペースは従業員の行き来が多い農園とカフェの間に設置することで、仕事の合間でも気軽に様子を見ることができ、お昼は親子で一緒に休憩がとりやすいようにしました。また、子どもの面倒は従業員同士で見ており、お互いを助け合いながら働く環境を整えることができました。以前は子どものお迎えのために焦って退勤する従業員も多かったですが、今は心と時間に余裕を持って仕事に励んでくれています。子どもたちもすっかり気に入って、帰る時に「ママもっと仕事してもいいよー」と言われてしまうこともあるそうです（笑）現在は私含め従業員4人の子ども6人が施設を利用しています。



▲ 遊具は安全で耐久性の高いものを

"子"連れ出勤も"孫"連れ出勤もOK

観光農園やカフェは土日祝日が賑わうため、従業員もたくさん必要になります。しかし、土日祝日は保育園等も受け入れ体制が少なく、働きたくても育児のために働けない方もいらっしゃると思います。子連れ出勤や孫連れ出勤を認めたことで、やる気も能力もある育児中のお母さんや孫を預かる女性にも職場として選んでもらい、働き続けてもらえるようになりました。子連れ出勤が安心してできる環境があると従業員の家族からも働くことを応援してもらえるようになります。これからも社労士さんとも相談しながら子連れ出勤の仕組みを柔軟に整え、待遇面等の整備も併せて進めていきたいと思っています。まだ来期の採用活動前ですが、育児中でも働きやすい環境や制度を知った育児中の女性から既に問い合わせが入ってきていて、求人への反響も大きいです。



・ 今後のビジョン ・

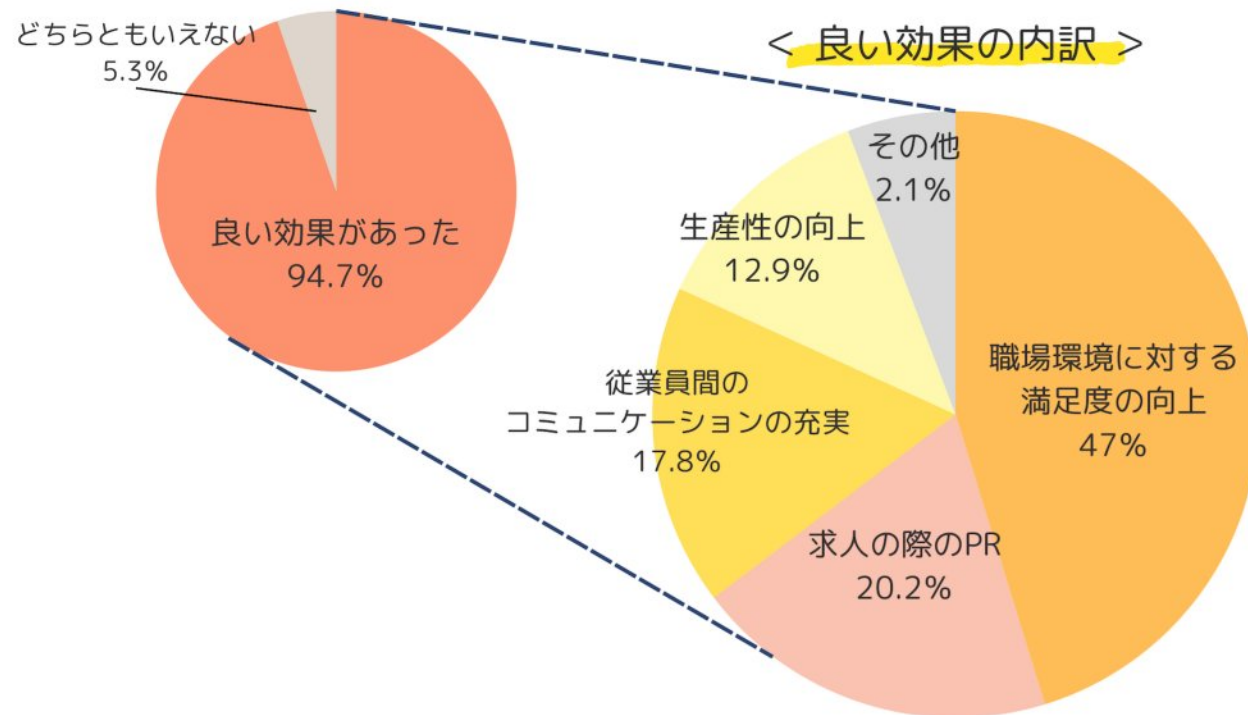
会社みんなで子どもたちを育てていく

託児スペースを活用した子連れ出勤制度や出産・育児休暇制度をスタッフに活用してもらうことで、会社みんなで子どもたちを育てるような空気や環境をつくり、「働くスタッフが自慢したくなるような会社」を目指していきます。



働く環境整備でこんな変化が！ （令和3年度～令和5年度に環境整備に取り組んだ事業者151名を対象にアンケートを実施）

Q1. 経営に良い効果はありましたか？（回答者151名・内訳のみ複数回答可）



Q2. 女性の雇用に変化はありましたか？（回答者151名・複数回答可）



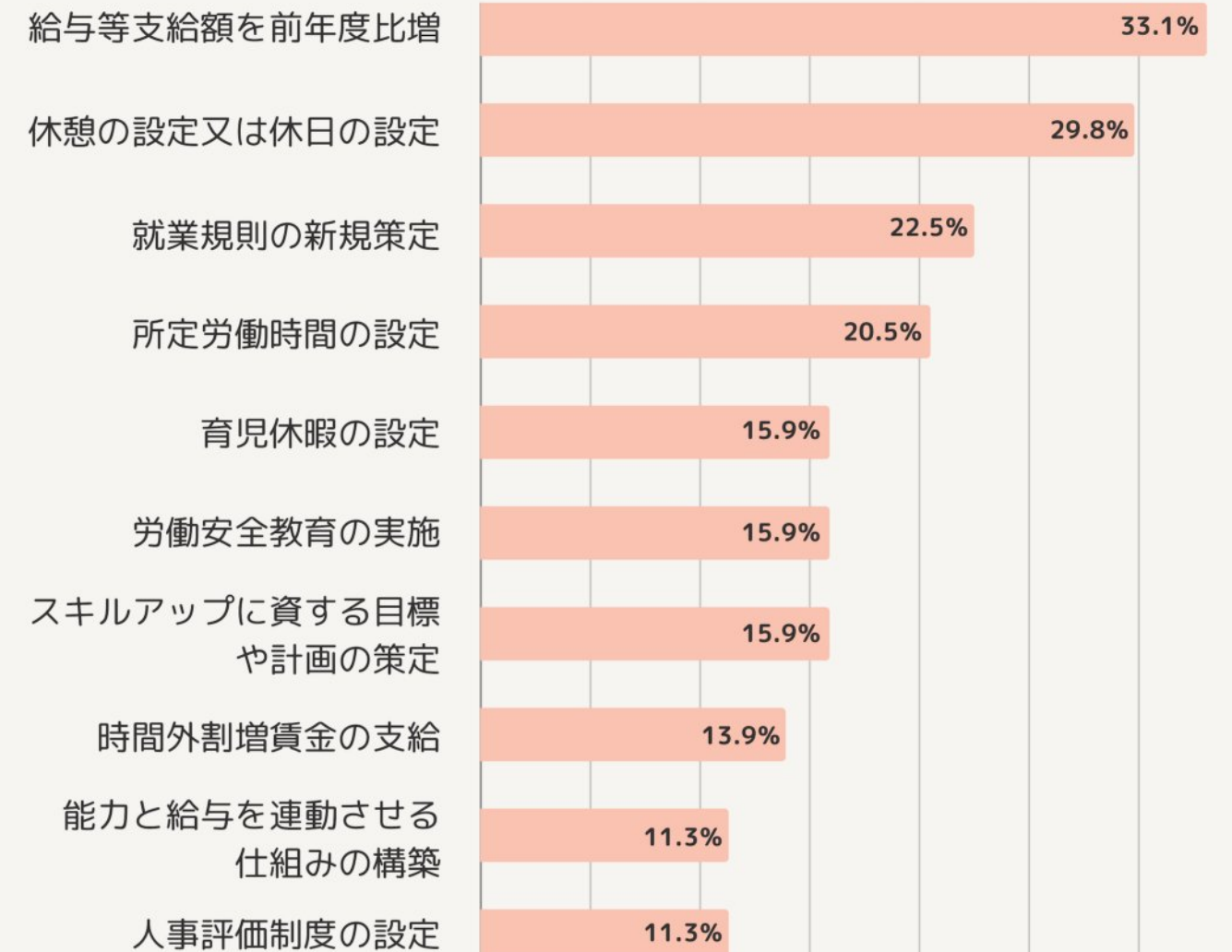
2年前にトイレと休憩室を設置して女性の活躍を実感！

株式会社ほほえみ農園（愛知県西尾市）
代表 太田真司さん 作目：ミニトマト

環境整備に取り組んだことで、従業員の定着率が上がり、班のリーダーや責任者をサポートしてくれる女性従業員もできました。人の確保が難しい農業界では、働く人のニーズに合わせた環境を提供することが大切だと考えています。「休みやすい」「子育てしやすい」を求人のコンセプトに「きれいなトイレと休憩室」もPRしながら、雇用につなげていきたいと思っています。



Q3. 本事業をきっかけに労働環境改善のために取り組んでいることを教えてください。（回答者151名・複数回答可）



働く環境のハード面もソフト面も整えることで
女性従業員の更なる活躍を！

女性活躍のための第1歩「一般事業主行動計画」とは

「女性活躍推進法」（※1）及び「次世代法」（※2）に基づき、自社の女性活躍にむけた取組や仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備などにあたって、計画期間、目標、目標達成のための対策及びその実施期間を定めるものです。
従業員数101人以上の事業主に策定等が義務付けられている計画であり、従業員数100人以下の事業主については努力義務とされています。
これらの取組状況が優良であるなど一定の基準を満たした企業に対しては、「えるぼし」認定（※3）や「くるみん」認定（※4）などの認定制度が設けられており、女性活躍推進企業であることをPRすることができるほか、公共調達で加点評価を受けることができるなどのメリットがあります。

※1：女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（平成27年法律第64号）
※2：次世代育成支援対策推進法（平成15年法律第120号）
※3：えるぼし認定制度
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/Q000091025.html>
※4：くるみん認定制度
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/shokuba_kosodate/kurumin/index.html



※3：えるぼし認定制度



※4：くるみん認定制度

一般事業主行動計画のイメージ

1. 計画期間
2. 内容
目標
対策（スケジュール）

↑女性の採用計画、育休制度の導入、男女別トイレ、休憩室の確保など環境整備の内容・実施時期等を位置づけることで、自社の女性が活躍できる環境づくりや労働者の仕事と子育ての両立に対する姿勢を対外的にもアピールできます！

女性農業者グループの活動支援について

全国各地の女性農業者グループは、女性農業者の活躍・能力発揮の拠点になっています。

「令和4年度女性の就農環境改善支援事業」では、女性農業者グループの活動支援を通じて、女性の農業への呼び込みや定着、ひいては女性農業者の能力発揮の推進を目的に、活動を後押しする補助金を交付しました。

補助の対象となる活動

上限
50万円

女性農業者グループの活動支援

1. 女性農業者等のグループの立ち上げのための取組

例：

- ・グループ活動の開始に向けた組織設計等の研修会の開催、講師派遣
- ・グループ活動の周知によるメンバーの募集
- ・協業者の探索、協業者との打ち合わせ、勉強会

2. 女性グループ活動の開始・発展に向けた取組

例：

- ・6次化に的けた先進事例の調査
- ・商品の新規開発に向けた試作品の開発
- ・活動が活発な他地域女性農業者グループ活動の調査、視察
- ・他事業者との連携に向けた打ち合わせの開催

◀◀◀ 女性が働きやすい環境整備 事例集

女性農業者グループの活動支援 事例集 ▶▶▶

環境整備を実施した27団体のうち、

・商品開発……………9件	・先進地視察……………10件
・研修会の実施……………14件	・会員募集（チラシ作成・体験会開催）…14件
・イベント開催……………8件	・その他（グループのロゴ制作など）……11件

が実施されました。その中から、補助金を利用した3つの団体の事例を紹介します。

※複数実施の団体有

事例目次

- ・びんご農業女子会……………14ページ
- ・美人草……………16ページ
- ・丹羽 根っこの会……………18ページ

びんご農業女子会

話し手：先家茉莉さん

団体情報

所在地	広島県福山市
代表者	西本由佳
設立年	2023年
メンバー数	21名（全員女性）
特徴	備後地域初の女性農業グループとして発足。農に関心のある女性のコミュニティの場として、この地域の女性の農業の発展に寄与することを目標にしています。



補助金の使い方内訳

- グループ立ち上げのためのセミナー・ワークショップ 約 37 万円
- 岡山県視察（農マル園芸吉備路農園、おかやま農業女子） 約 11 万円

・解決したかった課題・

女性が相談し合える横の繋がりや交流の場がなかった

備後地域とは、広島県東部及び岡山県西部の6市2町を指し、古くは備後国として一つであった歴史もあるため、地域の結びつきが強いのが特徴です。広島県内の有数の農業地帯が含まれるため、農業に従事する女性は一定数いるものの、農業女子グループはなく女性農業者の横の繋がりが薄いのが現状でした。気軽に相談や情報交換ができる場を作り、農業に興味がある女性を呼び込める基盤を作りたいと考えていました。

個人での活動には限界がある

女性農業者の得意を活かすことができる取組としては、六次化や商品開発、マルシェの開催などがありますが、個人で実現することは難しいと感じていました。一緒に取り組める仲間がいれば、意見を出し合い協力しながら、様々な活動を展開していけると考えていました。

・補助金で、こんなことができました！・

いよいよ始動！メンバーは5人から21人に！

はじめに、活動について話し合うためのセミナーを開催しました。セミナー開催前には広報活動として、女性を意識したデザインのチラシを作成し配布しました。口コミもあり参加メンバーは、第1回で16名、第2回で21名にまで増え、農家だけでなく、農に関心のある方や、これから農業に携わりたい方など様々な人を呼び込むことができました。セミナーでは、グループワークでメンバーの相互理解を深め、取り組みたいことや課題を共有しました。また、中国四国農政局、JA、外部講師として産業支援や食育活動の専門家にも参加いただき、農業における女性の状況や進め方についてのアドバイスをいただきました。

次に、グループでのマルシェ開催に向けて知見を得るために、農産物直売所や女性グループとして活発な活動に取り組んでいる先進グループの視察を行いました。先進地視察は岡山県へ。「農マル園芸吉備路農園」は、備後圏域最大の農産物直売所です。様々な加工品を販売しており、売り場デザインも農家自身が行っているようで、今後グループでマルシェを開催していくにあたり、大変刺激を受けました。

また、先進グループとして「おかやま農業女子」のもとを訪ね、意見交換会を行いました。いくつかのグループに分かれ、「おかやま農業女子」のメンバーに質問をする形式で、農業女子同士で集まる「農業女子会」があつてよかったと思う点、運営する上で大変だった点などを話し合いました。「おかやま農業女子」の他業種とのコラボ活動や経営の勉強会などは、今後の運営の参考になることばかりでした。

視察後には、びんご農業女子会の今後の具体的な取組や体制などについて考える、立ち上げに係るワークショップを開催しました。メンバーが予想以上に増えたので、会則の見直しなどを行い、運営体制を整えました。今後は、グループのロゴの作成、SNSの運用、勉強会など、グループ活動に着手し、活動を盛り上げていきたいと思っています。



農のつながりを通して地域の盛り上げを！

・今後のビジョン・

びんご農業女子会のブランド化を目指して

メンバーがこのグループの活動を通して、やりたいことを主体的に自由に取り組めるようにしていきたいです。びんご農業女子会に所属しているメンバーの作った野菜、加工品を活用し、グループの活動やメンバーの農業を知ってもらうためのイベントを開催し、安心・安全のイメージを持ってもらえるようブランド化を進め、広くファンを増やしていきたいです。それが備後地域を盛り上げることに繋がればと思います。

活動年表

2023年2月

発足

2023年8月28日

第1回セミナー
「農業における女性の状況」

2023年10月16日

先進事例視察 &
農業女性グループ交流（岡山県）

2023年12月1日

第2回セミナー
「活動計画と目標設定」

2023年12月14日

立ち上げワークショップ



美人草（びじんそう）

話し手：栄雄大さん

団体情報

所在地	鹿児島県大島郡宇検村
代表者	栄雄大
設立年	2022年
メンバー数	9名（うち女性8名）
特徴	宇検村のおばあちゃんたちが集まって、ヨモギを中心としたハーブの栽培&販売を行っています。グループでの農業を通じて、村で元気に活躍するおばあちゃんを増やしていくことを目指し、活動しています。



補助金の使い方内訳

- アドバイザーを招いた現地調査、商品開発・販路開拓手法についてのアドバイス

約 25 万円

- BtoB商品のパッケージデザイン

約 20 万円

・解決したかった課題・

元気なのに役割がない？ 活躍の場が必要だった

私の地元の奄美大島の宇検村には、定年退職後に元気に過ごすおばあちゃんが多くいます。地域おこし協力隊として活動する中で、おばあちゃんたちから「集まる理由や交通手段がなくて、村のみんなと会にくい」という声を聞きました。そこで、おばあちゃんたちを支え、みんながいきいきと暮らしていくために、畑を借りて地域のおばあちゃんみんなが集まって農業や加工をする活動を始めました。

誰もが参加できる グループをつくりたい

美人草は、特定の人が集まる場ではなく、村に住むおばあちゃんたち誰もが参加することができる場所として活動していますが、宇検村の多くのおばあちゃんたちに参加してもらうために、グループの存在をもっと地域に知ってもらう必要がありました。また、農業や加工を通じてグループの中や地域での役割ややりがいを実感しつつも、グループでの農業で収益を上げ、持続可能な取組としていくために、今の取組を発展させてさらに収益の上がる取組にしていく必要がありました。



・補助金で、こんなことができました！・

ヨモギ栽培とBtoB販売。 宇検村のやり方を見つけた！

本事業ではまず、福岡県で美人草と同じようにおばあちゃんたちが一緒に農産物の生産・加工の活動をしているグループである「うきはの宝」の大熊充氏をお招きし、宇検村の様子を視察してもらったうえで、美人草の活動へのアドバイスをもらうこととしました。離島という物流面でのコストがかかることから、生産したハーブ類を最終製品にまで加工をするのではなく、一次加工でBtoB販売をするのがよいのではないかとのことでした。そこで、グループで話し合いを行い、BtoB販売に向けた周知の一環として、宇検村内の飲食店などへのよもぎの粉末のサンプル配布を行うことに決めました。大熊氏のような外からの視点を取り入れることによって、自分たちの地域ならではのやり方を模索することができました。

おばあちゃんの経験と雑談力が 商品づくりの肝！

宇検村内の飲食店やカフェ、プリンをつくっているお店、よもぎ蒸しを行っているサロン、食品加工会社などにサンプルを配布してみたところ、「香りが強くていい！」と前向きなフィードバックをもらえました。おばあちゃん達の持ち前のコミュニケーション能力もあり、順調にサンプルの配布が実現し、合わせて美人草の活動を知ってもらうことができました。

また、よもぎの加工を新たにはじめるにあたって、おばあちゃんたちのこれまでの料理の経験のおかげで、とてもスムーズ。サンプル配布を通じて得た感想を踏まえて、今後の新たな商品やパッケージのアイディアも生まれています。



・今後のビジョン・

もっと多くのおばあちゃんたちを受け入れていきたい

よもぎの粉末のサンプル作成や配布をはじめる前は、「ほんとうにできるの？」と不安に思うメンバーもいましたが、活動が進むにつれて、自信をもって取り組めるようになっていました。

現在は9名で活動している美人草ですが、村内から「私も参加したい！」という声をもらうようになりました。そのためには、活動を支える若手の力も必要です。サポートスタッフの配置をしたり、よもぎの加工販売での収益を活動費用に充てたりしながら、より多くのおばあちゃんたちを受け入れられる場をつくっていききたいと思います。



丹波 根っこの会

話し手：山本浩子さん、宮崎早織さん、
宮垣美絵子さん、恒松智子さん

団体情報

所在地	兵庫県丹波市
代表者	山本浩子
設立年	2019年
メンバー数	32名（全員女性）
特徴	丹波地域の女性農業者が、農業経営の中で「根っこ」のように大事な存在となることを目指し、メンバー同士で「根っこ」を張り巡らせて学び合い・情報交換ができるよう活動しています！



補助金の使い方内訳

- 「土づくり」をテーマにした研修会（3回）
約 33 万円
- 循環型農業・観光農園・加工品製造などを行う農園への視察研修
約 10 万円

解決したかった課題

メンバー全員にとって学びになる研修づくりが難しかった

「丹波 根っこの会」では、メンバーで集まって、自身の農業に活かすことができるような内容の勉強会を行ってきました。これまでは、インボイス制度勉強会や、POPの書き方、加工品の裏ラベル表示講習会に取り組んできました。メンバーの経営は、多品目の野菜栽培、水稻栽培、加工食品の製造、農家民宿、家庭菜園と多様なため、全員共通で学べるテーマを設定するのが難しいと感じていました。

土づくりをきちんと学びたいというメンバーの声に答えて

研修テーマを考えるためにメンバーに相談した際に、「土づくりを学びたい」という声が上がりました。地域では土づくりについて学ぶ機会があっても男性が出席することが多く、「pH」や「EC」といった土づくりに関する単語に慣れていない方や、理論についてきちんと学びたいという方が多かったです。土づくりなら全員にとって学びが深まり、農業技術の向上にも繋がると感じました。

・補助金で、こんなことができました！・

「地域資源を活用した土づくり」のはじめの一步が踏み出せた！

研修会では、まず初回で土づくりについて詳しい「丹波からふるファーム」の西垣健太郎さんをお招きし、土づくりの基礎を学びました。用語や考え方を学んだ後、メンバーそれぞれのほ場の土壌分析を行いました。続く2回目、3回目に、「（一社）日本有機農業普及協会公認BLOF」インストラクターの元木雅人さんに講師をお願いして、分析結果を元に今土の中で何が起きているかや丹波で盛んな栗や黒豆などの残渣を使った地域資源を活かした土作りについて解説していただきました。

視察では、土づくりに関して参考にしたい有機循環農法での野菜栽培・観光農園・レストランなどをされている「杉・五兵衛」に伺いました。園主の堅島郷さんに園内を案内してもらい、多角的に展開する農園の経営についての考え方や、想いや、園内で育てる農産物の栽培方法などについて聞きました。また園内で生産された農産物で作るランチを食べたり、加工品を購入したりして、料理や商品の見せ方・伝え方を学びました。

研修と視察を通して、メンバーからは「視察先では、循環型農業、栽培技術、観光農園、加工技術などについて、様々な立場から質問が飛び交い、意見交換も出来て非常に良かった。」「これまで、いい野菜をつくるためには土だとなんとか思っていたが、実際に見たり学んだりすることによって、改めて大事さを知ることができた。」「自分は数字やデータが苦手だったので出荷担当と思っていたけれど、研修を通じて、より栽培の根本である土について学びたいと思った。」「地域資源を活用した土づくりのことも知ることができ、地域にとってよりよい循環をつくることができる可能性を感じた。」など、前向きな感想をもらうことができました。

農繁期をまたぎながらこうした研修を企画することは難しいのですが、今回は補助金を活用して外部に連絡調整などの事務仕事を依頼したことで、農業技術を磨く場を実現することができました。

今後のビジョン

丹波のこれからのために、継続した学びの場づくりを

今後も土づくりをテーマに、学びの場づくりを継続していく予定です。特に「地域資源を活用する」という視点はこれからの農業を考える上でも大切だと感じていて、地域の農業者の技術向上も目指しつつ、学びを深めていきたいと思っています。これからもメンバーの「根っこ」を育んでいけるよう、活動していきます！

